別添３（第４の１関係）

令和7年度学校給食用牛乳供給円滑化推進事業のうち学校給食用牛乳供給推進会議の実施結果
（九州農政局）

都道府県名 項目	福岡県			佐賀県	長崎県	熊本県	
(1) 会議等の名称	第1回学校給食用牛乳供給推進協議会	第2回学校給食用牛乳供給推進協議会	第3回学校給食用牛乳供給推進協議会	学校給食用牛乳供給推進協議会	学校給食用牛乳供給推進会議	学乳推進協議会	学乳推進協議会
(2) 日時	令和7年7月1日	令和7年8月12日	令和8年3月25日	令和7年5月20日	令和7年11月12日	令和7年8月27日	令和8年3月18日
(3) 場所	福岡市	福岡市	福岡市	佐賀市	長崎市	熊本市	熊本市
(4) 参加機関と人数	行政、県給食会、関係団体等10名	行政、県給食会、関係団体等９名	行政、県給食会、関係団体等８名	行政、県給食会、関係団体等９名	行政、県給食会、関係団体等9名	行政、県給食会、関係団体等10名	行政、県給食会、関係団体等８名
(5) 議題	・酪農・乳業を取り巻く厳しい現状の共有 （生産量減少・酪農家廃業の加速・コスト高の継続） ・学乳向け生乳価格の期中値上げ（4円/kg）要請への対応協議 ・値上げに伴う保護者負担軽減策（地方交付金活用）の検討	・学乳向け生乳価格の期中改定対応（県教育庁からの市町村意向調査結果の報告と協議） ・検食用牛乳の費用負担について	・酪農・乳業を取り巻く現状報告 ・令和7・8年度の学乳供給状況の報告 （期中改定なし、8年度は3円62銭値上げで決着、検食用牛乳の有償化決定） ・福岡県における学校給食費無償化の実施について	・令和６年度学校給食用牛乳供給事業 ・令和６年度佐賀県牛乳普及協会収支報告 ・令和７年度学校給食用牛乳供給事業 ・令和７年度佐賀県牛乳普及協会事業計画（案） ・令和７年度経費の賦課およびその徴収方法 ・令和７年度学校給食用牛乳供給事業生産	・令和６年度学校給食用牛乳供給推進実績について ・令和７年度学校給食用牛乳供給推進交付申請および実施状況について ・その他	・令和６年度学校給食用牛乳供給事業実績について ・令和７年度学校給食用牛乳供給事業について ・令和７年度学乳の品質事故発生時の対応マニュアルについて ・学校給食用牛乳のWeb 発注への取り組みについて	・令和７年度学校給食用牛乳供給事業実施状況について ・令和８年度学校給食用牛乳供給事業計画について ・学校給食用牛乳の Web 発注への取組みについて
(6) 概要	【体育スポーツ健康課】 ・酪農家支援のため学乳向け生乳価格（現行146～147円/kg）のキロ当たり4円値上げが要請されているが、保護者負担軽減のための地方交付金はすでに使途が決まっており、学乳への追加投入は困難な状況。このため、7月中に市町村へのヒアリングを実施し、畜産課と協議の上、牛乳協会に対応可否を連絡する。 【栄養士会】 酪農家の厳しい状況は理解できるが、期中値上げは献立作りへの支障や80銭/200ccの負担増が吸収困難なため、栄養士会としては賛同不可。 【県学校給食会】 ・学乳価格の期中改定は馴染まず、交付金活用も市町村ごとの判断となるため足並みを揃えることは困難。 【畜産課】 ・酪農家支援のため期中値上げには賛成だが、保護者負担軽減に向けた交付金活用について市町村間のコンセンサス形成は困難と見ている。 【体育スポーツ健康課】 ・学乳価格の決定時期が飲用向けより2か月遅れることが期中改定の一因であり、次年度の乳価を見越した価格設定や早期アナウンスなど、期中改定を回避するための仕組みづくりが必要。	【畜産課】 ・畜産課としても期中改定は困難と判断。 【県栄養士会】 ・献立変更の困難さや九州各県での前例のなさから、期中改定は難しいと考える。 【県給食会】 ・市町村からは来年度価格への問い合わせが多く、献立作成に最低5か月要することからも期中改定は困難。 【九州生乳販連】 ・酪農家としては値上げを求めるが、本協議会で検討いただいたことに意義がある。 【牛乳協会会長】 ・今年度の期中改定は困難との結論を踏まえ、今後は年度途中の価格変更が生じた場合、その値上げ分を積み残し価格として次年度の学乳価格に上乗せ算定する仕組みを提案。積み残し価格は11月の畜産課原価調査に間に合うよう生乳販連から通知する形が望ましい。	・燃料・飼料価格の高騰やイラン情勢の不透明感が続く中、年度末の推進協議会が開催された。 ・九州の酪農家戸数は令和7年度末に約910戸まで減少見込みで、年間約7%の減少が続いており、全国的にも酪農家の廃業が加速している状況が報告された。 ・学乳価格については、令和7年度の期中改定は行われなかったものの、令和8年度は期中改定予定分を加味した3円62銭増の66.32円で決着し、検食用牛乳の有償化も決定した。また、福岡県では令和8年度から全市町村で学校給食費の無償化がスタートする予定であり、152億円の予算（国費・県費折半）に加え、不足分約25億円を市町村の物価高騰対策交付金で補う形で対応することが報告された。	・令和６年度事業の経過ならびに令和７年度事業内容について検討	【乳業協会】 ・学乳配送業者は、2024年問題から人手不足、人員配置、車両稼働の面で厳しい状況であるとの事。新規業者も見つからない。 【給食会】 ・配送コスト低減の取組として、離島では冷凍食品を利用し宅急便で運んでいる所もある。他の離島でも順次取り組んでいきたいと考えている。 【栄養士会】 配膳員の勤務時間等で夕方の受け取りが出来ないところもあるので前日配送は難しいと思う。 【PTA】 ・給食の理解醸成の取組として、保護者に給食センターの見学をしてもらい、価格の安さ安全性を説明した。	【事務局】 ・HACCP に沿った衛生管理の取り組みについて衛生管理の徹底を会員に周知し、供給事業者の取り組みの現状について説明し協議した。衛生管理の講習会への参加及び自工場の自己点検結果の提出や、令和７年度「学乳の事故発生時の対応マニュアル」を確認した。 ・その他 供給事業者から学乳事業のweb 発注の取り組み状況について報告があった。 生産者団体から生産状況や、学乳については期中の価格改定はしないことなどの報告があった。	【事務局】 保存食用牛乳の有償化について 事務局より、保存食用として1 本が無償で提供されていたが 令和8 年度以降は有償となることを再度確認し全員に周知徹底を図った。 ・学校給食用牛乳の Web 発注への取組みについて 令和8 年度2 学期から一部の乳業者の対象校で実施することが報告された。 生産者団体より生産状況について熊本県の生乳生産量が九州の46%を占めるに至り酪農家数は361 戸との報告があった。
(7) 成果	・九州生乳販連からの学乳向け生乳価格値上げ要請（8月・4円/kg）については本協議会では結論が出なかった。 ・体育スポーツ健康課が持ち帰り、7月中に複数市町村のヒアリングを行った後、畜産課と協議のうえ、再度協議会開催も含めた対応を牛乳協会に回答する。また、次年度の学乳価格決定に際しては、次年度乳価を事前に推定して予定価格を算定するなどの仕組みづくりを検討する。	・今年度の学乳価格の期中改定は行わない。乳価増額分については次年度の学乳価格に上乗せ反映する方向で調整し、増額見合い分は乳業者と生乳販連で調整のうえ畜産課に報告する。 ・検食用牛乳の費用負担については、乳業者の負担軽減のため令和8年度から有償化する。実施にあたっては推進協議会名で各委員に通知を行い、県教委から各市町村へ事前に周知する。	・給食無償化に伴い食材費負担が自治体に移行する中、国の基準額と実際の食材費の乖離による自治体間の対応格差が生じる可能性がある。 ・福岡市が学乳の一部を代替供給する方針を示しており、酪農・乳業への影響が懸念される。また、無償化により給食廃棄問題が今後クローズアップされることが予想される。 ・牛乳の消費拡大に向けて、食育プログラムの実施や新たな調理法の開発、廃棄削減の工夫など、学校・自治体が連携した取り組みの必要性が指摘された。	・学校給食用牛乳の供給に関係する機関の担当者へ事業実績ならびに事業計画について会議資料の報告ならびに確認を行い、事業の円滑な実施に向け連携が図れた。 ・学乳における契約および毎月の精算について、供給業者と学校ごとに実施しており、事務負担軽減等の検討を継続課題とする。（供給業者・学校給食会・保険体育課・県畜産課）	・事業実施状況の周知と、今後の円滑な実施に向け課題等が共有できた。	・令和７年度事業内容について周知できた。 ・HACCP に沿った衛生管理の徹底について共通認識をもてた。	・令和７年度事業実施状況について共有できた。 ・令和８年度事業内容について周知できた。

別添３（第４の１関係）

令和7年度学校給食用牛乳供給円滑化推進事業のうち学校給食用牛乳供給推進会議の実施結果

（九州農政局）

都道府県名 項目	大分県		宮崎県	鹿児島県	
（1）会議等の名称	学校給食用牛乳供給推進会議	学校給食用牛乳供給推進会議	令和７年度宮崎県学校給食用牛乳協議会	学校給食用牛乳供給推進会議（第１回）	学校給食用牛乳供給推進会議（第２回）
（2）日時	令和7年8月5日	令和8年3月10日	令和7年12月18日	令和7年8月18日	令和8年3月18日
（3）場所	大分市	大分市	宮崎市	鹿児島市	鹿児島市
（4）参加機関と人数	行政、県給食会、関係団体等12名	行政、県給食会、関係団体等12名	行政、県給食会、関係者団体等16名	行政、県給食会、関係者団体等15名	行政、県給食会、関係者団体等13名
（5）議題	・学校給食用牛乳供給事業について ・令和６・７年度 学乳供給事業の実績及び計画報告 ・令和７年度 学乳供給価格の期中改定について ・その他事例紹介（品質・風味事故事例、配送コスト調査結果） ・食品衛生講習会	・令和7・8年度の学乳供給推進事業の実績・計画および品質管理対応の確認 ・学乳の安定供給に向けた課題対応と品質事故・風味変化事案に関する情報共有	・令和 ７ 年度学校給食用牛乳供給推進事業について ・令和 ７年度宮崎県牛乳普及協会事業計画について ・学校給食用牛乳供給事業に関する事業評価、課題の検討について	・酪農情勢について ・令和７年度学校給食用牛乳供給推進事業について ・令和６年度学校給食用牛乳供給推進事業実績について ・令和７年度学校給食用牛乳供給推進事業計画について ・その他	・令和８年度学校給食用牛乳供給推進事業の概要について ・令和８年度学校給食用牛乳供給事業計画について ・その他
（6）概要	・学校給食用牛乳供給事業における安定需要確保対策の対象地域について確認が行われ、別府市が地域振興8法の指定地域に該当しないため対象外である旨が説明された。 ・令和7年度学乳供給価格の期中改定について、7月22日の大分市を皮切りに各市町村への説明が順次進められており、複数市町村から内諾を得ている状況が報告された。 ・他県で発生した製品事故を受け、製品管理の徹底と事故後の適切な対応の重要性について意見交換が行われた。 ・配送効率化についてはドライバー不足や交通事情による課題が共有され、学校側の柔軟な対応環境整備を県に求める意見が出された。 ・高校生の牛乳摂取が減少傾向にある中、消費拡大策として「県産牛乳購入券」の発案があり、行政の協力が得られないか検討された。	・受領確認作業の学期ごとへの簡略化について、システム対応や供給区域をまたぐ市町村への統一対応など課題が共有された。 ・配送効率化については、供給本数が少数の学校があり、学乳路線を担う運送業者の負担が大きいため、安定的に供給をする上では、各市町村教育委員会の理解を得るようお願いする方向で意見交換が行われた。 ・学乳の受発注DX化について、既にシステムを取り入れている供給事業者の事例を紹介し、事務作業の省力化や人件費削減の効果が共有され、他の供給事業者についても今後のDX化に向けた展開可能性について検討が行われた。	【宮崎県畜産振興課】 ・令和 ７ 年度学校給食用牛乳供給推進事業について 今後児童数の減少が想定されるが、供給計画を策定する中でも要望数量の１割減を見込んでいる。近年の傾向を鑑みると今後も減少を続けることが見込まれる。 【宮崎県牛乳普及協会】 ・令和 ７ 年度宮崎県牛乳普及協会事業計画について 令和 ７年度も「牧場・乳業におけるふれあい総合学習」および「高校生応援理解醸成」等の事業を通して酪農および牛乳・乳製品についての理解醸成を図る。 【宮崎県牛乳普及協会】 ・学校給食用牛乳供給事業に関する事業評価、課題の検討について 給食以外の時間帯、例えば部活動後等にも牛乳を飲む機会を設けていきたいが、牛乳の管理・保管場所、生徒毎の部活動の有無等が懸念される。 ・「高校生応援理解醸成」時アンケートを実施。現時点での結果を共有した。	【鹿児島県酪】 ・８月より飲用牛乳向け価格4 円値上げとなっているのですが、学校給食用牛乳も値上げの検討をしてもらえないですか。 【県農政部】 ・値上げについては、来年度に向けて検討したい。期中での値上げは難しい。 【栄養士協議会】 ・年度中の改定は、保護者説明や地域の運営委員会などの調整があるので難しい。 ・牛乳パックが開けやすく飲みやすい衛生的にも良いと思う。 【飲用協会】 ・鹿児島県と宮崎県のメーカーが開けやすいパックを作りました。	【飲用協会】 ・生産者より小学校で牛乳を飲まない生徒がいて牛乳の廃棄があるとの情報で、メーカーで牛乳の出前授業を実施した。また風味の試飲も行った。 【県農政部】 ・牛乳の注文のペーパーレスの実施を検討できないか。FAX での注文で間違いが発生しているので今後メールやシステム化できないか。 【栄養会】 ・学校給食の食材は、牛乳だけでなく沢山の食材と業者がいるのでペーパーレスは難しい。 【飲用協会】 ・牛乳消費拡大や風味の動画などを利用して牛乳への理解をお願いする。
（7）成果	・期中改定については複数市町村から内諾を得ており、各市町村教育委員会への説明完了後、大分県知事名で正式な改定通知を発出する方向となった。 ・東海牛乳事故を教訓に、乳業者として製品管理の徹底と事故後の適切な対応の重要性が共有された。高校生の牛乳摂取促進策として「県産牛乳購入券」を県費で全高校生に配布する案が提案され、関係部署での検討が求められた。	・受領確認の学期ごと実施については、農政局確認済みのもと取り組みを進める方向となったが、二学期制の学校もあるため、一律での対応は難しく、システム対応や供給区域をまたぐ市町村への対応は各社で確認が必要とされた。 ・配送効率化については早急な対応の必要性が確認され、供給事業者で構成する事業協同組合としても、各市町村教育委員会への働きかけが必要である事を共有した。 ・受発注DX化については、取り組んでいる供給事業者の事例を参考に、前向きな検討がされた。	学校給食での牛乳供給を計画的かつ効率的に供給するため、酪農情勢や酪農乳業の課題、牛乳が飲めない児童への対応等も含め関係者で意見交換を行うことができた。	酪農乳業界の現状が理解され、来年度に牛乳供給価格の改定がある場合に敏速な情報提供を行う事を確認し、円滑な事業推進に向けた共通認識が図られたと考えられる。	・事業の仕組み、概要等が理解された。 ・令和８年度事業実施計画の内容が再確認された。 ・当該事業の円滑な推進に向けた共通認識が図られた。 ・学校向け活用教材を提供できることが図られた。 ・本県酪農の現状等が理解され共通認識が図られたと考えられる。